

Aグループ

No.	項目	数	内 容
1	地元の特産物(農産物・酒など)のブランド化	3	・ブランド化をするためのPRが必要である。
			・農産物(米, ニラ, ネギ, 梨, 酒)のブランド化を進める必要がある。
			・農産物をPRする方法を考える。
2	地元の特産物を販売する大型販売所の設置	2	・農産物の販売を有利に進める直売所の設置
			・地域で共同販売できるようにする。
3	ITなどを利用して, 全国へ発信する。	3	・ITを活用して全国へ発信させる。
			・個々のブランド化を取りまとめる発信基地(大型販売所)
			・ネットなどのメディアを利用してPRや販売をする。

Bグループ

No.	項目	数	内 容
1	河内ブランドのPRの場の開拓が必要である。	6	・河内ブランドのPRの開拓をする場が必要である。
			・まずは, 地域住民に河内ブランドの認知度を高める。
			・農産物の種類の多さをPRする。
			・PR不足なため, コマーシャルが必要である。
			・経済的には, 中心市街との連携は良好ですが, 地域ブランドとしてはどうか。
			・ブランドをPRできるような, まちの特産物の共通のトレードマークやネーミングが必要
2	様々な特産物を売る場を考える。	8	・様々な特産物を売る場を考える。
			・経済効果のあるイベントを集客力のある地元で行う。(場所の提供)
			・農村レストラン系がない。地元の食がわからない。
			・地元生産品の販売力が不足
			・まずは, 地元の人が地元の特産を知る機会を増やす。愛着を持たせる。
			・中央公民館に併設した販売所を設置し, ブランド力を高める。
			・販路の確保(農産物など)
			・農産物の流通機構が無い。
3	農業の担い手に対する指導と経済基盤の確保が必要である。	5	・農業の後継者を育てたり, 残すためには異業種との交流が必要
			・農業の担い手づくりが必要
			・生産者の部会の力を強め, 各種ブランドの育成が必要
			・農業をやりたい若い人達, 初心者育てるプログラム
			・農業の担い手に対する指導と経済基盤の確保が必要
4	産業・経済, 観光の連携を図った施設, システムが必要である。	1	・産業・経済, 観光の連携を図った施設, システムがほしい。

Cグループ

No.	項目	数	内 容
1	農業の担い手を育てる組織を作る必要がある。	4	・後継者はいないが農業をやりたい人はいる。
			・農業後継者の育成
			・農業(野菜づくり等)の担い手を育てる組織をつくり, 企業化に向けた取り組みを早期に進める。
			・農業体験の場を設ける。
2	農産物販売の拠点となる施設の設置	6	・農産物を販売する場所を作ったらどうか。
			・県内外の人が立ち寄れる農産物販売の大型施設を設置して集客を図る。
			・河内地区にブランド化された物がない。
			・河内ブランド品を選別して認定し, 外部へPRする。さらに, 地域内の拠点をつくり, 大型の販売網をつくる。
			・朝市のイベント化を図り宣伝する。
			・軽トラックで朝市
3	農産物販売網の設立	3	・農産物の販売網が必要
			・流通がスムーズか。集荷はしやすいか。
			・おいしい米を地元の人が知り, 購入するにはどうしたらいいのか。
4	企業と地域住民の交流化を図る。	3	・企業と地域住民との一体化を図る。
			・企業の夏祭り等を大々的に実施する。地域が一体化となって行なう。
			・工場内の見学や製品の展示などのイベントを企画する。

課題の抽出 グループ協議結果【観光】

Aグループ

No.	項目	数	内 容
1	豊かな自然環境・文化財などの有効活用とPR	3	・豊かな自然、田園風景に恵まれているそれらをまとめた案内図が欲しい。
			・豊かな自然や歴史のある地域を積極的にPRする。
			・歴史や自然環境にバランスが取れている。PRに力を入れていきたい。
2	ウォーキング、文化財マップを一元化する。 (現在は取りまとめの部署がバラバラ)	2	・ウォーキングマップや文化財マップなど、河内地区をまとめて作成する。(一元化する)
			・豊かな自然環境を有効活用(ウォーキングマップ)
3	逆面のふくろう、獅子舞の発展的PRと継承者の育成	2	・逆面ふくろう・逆面獅子舞の発展的PR(ブランド化)と継承者の育成
			・歴史や文化財等を観光と結びつける方向を探る。

Bグループ

No.	項目	数	内 容
1	文化財を活用する場と手段が必要になる。	7	・文化財を活用する場づくりが必要である。
			・鬼怒川の観光化を計画する。
			・文化財は、そこそこあるが、有効な活用手段はない。
			・伝統継承者の増員を考える。
			・農村、山林の有効利用と観光化
			・観光スポットを周知する必要がある。
2	観光スポットガイド及びマップを充実させる必要がある。	6	・河内は通過性の土地である。
			・観光ガイドのサポートができるスタッフを育成する方法を考える。
			・観光スポットになる施設はあるが、駐車場や案内標識の整備はあるのか。
			・ボランティアガイドの養成
			・宇都宮フィルムコミッションのように、地元を映画やTV、CMの撮影場所として提供し、PRするのはどうか。
			・文化財や伝統行事を残すためには、関わる人達(文化人)を育成するにはどうしたらいいのか。
3	地元のまつりの知名度を上げる必要がある。	4	・「かわち」の名を広め、定着させるためのシステムをつくる。例)大阪のかわちと姉妹都市(地区)
			・地元の祭りの知名度を上げる必要がある。
			・地元の祭りに出店する企業を積極的に募集する。
			・一般公募で地元を活性化するアイデアを募ることでPRするのも1つの方法

Cグループ

No.	項目	数	内 容
1	河内の産業と観光を案内、PRする拠点をつくる。	3	・河内の目玉になる観光地が必要
			・大型農産物販売施設はなぜできないのか。(人、金、意欲)
			・産業、観光をPRする拠点が欲しい。
2	観光スポットをPRするイベントを定例化し定着させる。	2	・見て歩く場所がたくさんあるので、PRをもっとした方が良いと思う。
			・観光スポットをPRする歩け歩け大会の定着化が図れないのか。
3	かわちの文化資源を観光に生かす必要がある。	4	・観光スポットとブランド品のマップをつくり、PRを図れないのか。
			・河内の資源をマップ化し、観光として積極的に取り組む。併せて、河内の魅力をPRできる施設をつくる。
			・広げるには、地区別のイベントでマップを配る。
			・旧河内町の文化財資料を確認する。
4	地域・地区ぐるみで伝統文化の継承者を育成する。	2	・地域や地区ぐるみで伝統文化の継承者を育成する。
			・地域や地区ぐるみで伝統文化の継承者を育成できないのか。